島根県水産試験場　漁海況情報　平成 18 年 1 月 27 日発行

トビウオ通信　（1 月号）

（本誌はホームページでもご覧いただけます。）
http://www2.pref.shimane.jp/suisi/　（TEL 0855-22-1720）

《平成 17 年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網１種漁業（かけまわし）

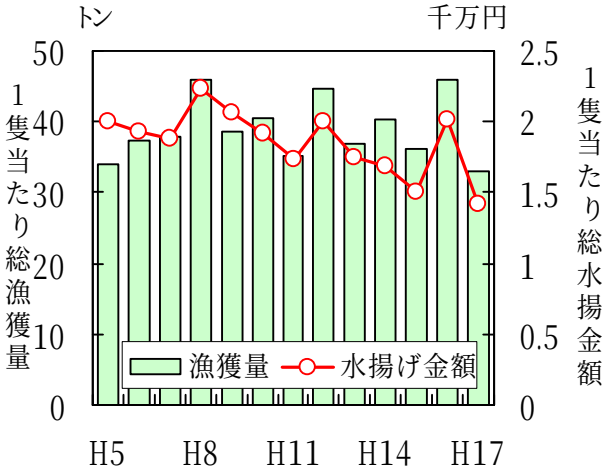


図１　小型底びき網漁業における１隻当たり漁獲量・水揚金額の動向

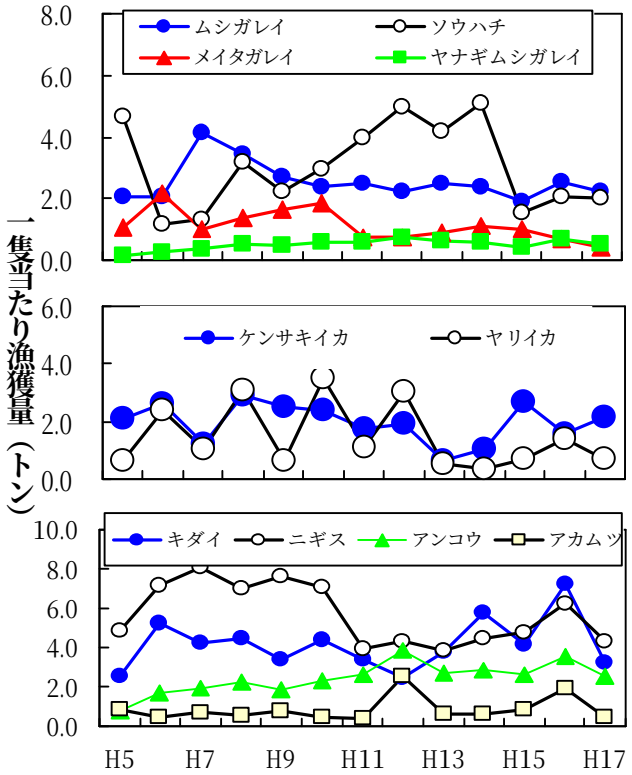


図２　小型底びき網漁業における主要魚種の動向

全体：1隻あたり量・金額は前年・平年を大幅に下回る

島根県の小型底びき網漁業（かけまわし）57 隻*の平成 17 年漁期前半（平成 17 年 9 月 1 日～12 月 31 日）の総漁獲量は 1,803 トン、総水揚げ金額は 8 億 857 万円でした。1 隻当たり漁獲量は 33 トン、水揚げ金額は 1,419 万円で、漁獲量・金額とも好調だった前年および平年（過去 10 年平均値　40 トン、1,878 万円）を大幅に下回り、平成 5 年以降最低の漁獲量・水揚金額となりました（図１）。これは、解禁当初から大型クラゲが大量に来遊し、操業に支障が生じたことに加えて、魚価の高い年末に時化が続き、出漁日数が減少したことが影響したと考えられます。

＊当漁業における島根県全体の操業隻数は 58 隻ですが、本統計は都合により 57 隻分の集計です。

ソウハチほぼ前漁期並み

ムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 2.2 トンで前漁期を約 1 割（12%）、平年を約 2 割（17%）下回りました。ソウハチの 1 隻当たり漁獲量は 2.0 トンで前年並みでした。また、ヤナギムシガレイは 0.5 トンで前年比 2 割減、メイタガレイは 0.4 トンで前年に対し約 4 割減少しました。

ケンサキイカ前漁期上回る

ケンサキイカの 1 隻当り漁獲量は 2.2 トンで、前漁期の 1.4 倍、平年の 1.2 倍の漁獲がありました。一方、ヤリイカの 1 隻当たり漁獲量は 0.7 トンと前年及び平年の約 5 割に留まりました。

キダイ・アカムツ低調

前漁期は漁獲量の多かったキダイですが、例年漁獲量は増減を繰り返すうえ、クラゲの影響もあって、1 隻当たり漁獲量 3.2 トン（前漁期の 4 割、平年の 8 割）に留まりました。またニギスの 1 隻当たり漁獲量も 4.3 トンで前漁期を 3 割下回りました。アンコウの 1 隻当たり漁獲量は 2.5 トンで前漁期を 3 割下回りましたが、ほぼ平年並み（96%）を維持しました。

その他、アカムツの 1 隻当たり漁獲量は 0.5 トンで、前年の約 3 割、平年の約 5 割と極めて低調に推移しました。これは加入量が少なかったうえ、大型クラゲの影響により、漁獲効率が低下したことが原因と考えられます。

沖合底びき網漁業(２そうびき)

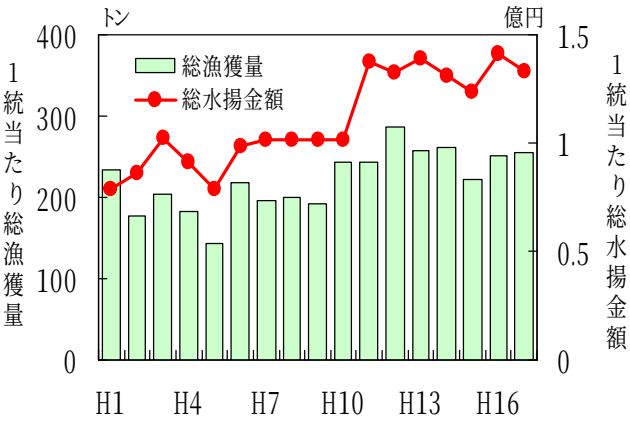


図３　浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における１統当たり漁獲量・水揚金額の動向

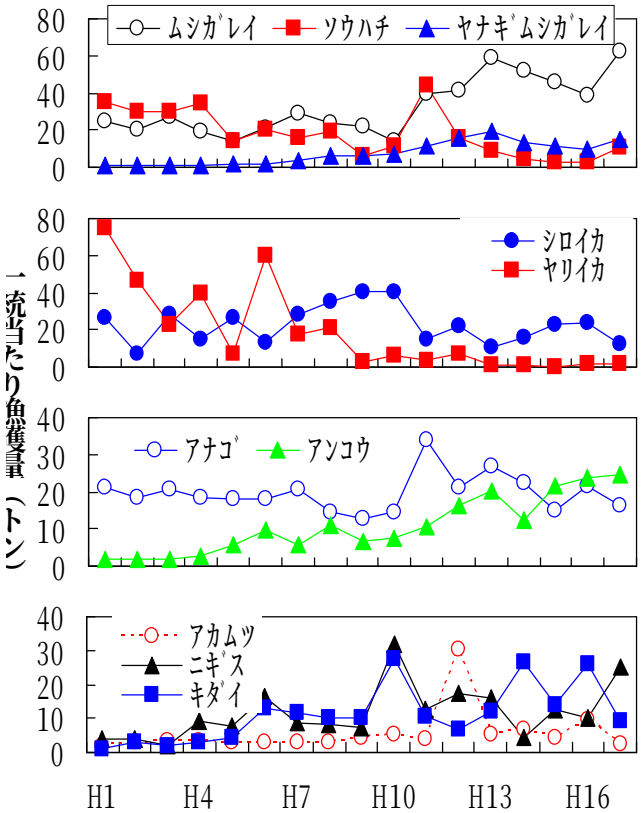


図４　浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向

◆県西部

全体：１統あたり量 金額とも前年並み

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数６ヶ統）の平成17年漁期前半（平成17年8月15日～年12月31日）の総漁獲量は1,533トン、総水揚金額は7億9,745万円でした。また、１統当たりの漁獲量は256トンで前漁期並みでしたが、平年（過去10年平均　235トン、１億2,104万円）を約１割上回りました。水揚げ金額は１億3,291万円でほぼ前漁期並み（96%）でしたが、平年を１割上回っています（図３）。解禁当初から大型クラゲが大量に来遊し、操業に支障が生じましたが、魚価の高い年末に漁獲があったことから水揚金額の落込みを抑えることができました。

カレイ類好調！

ムシガレイの１統当たり漁獲量は62.3トンで、前漁期の1.6倍、平年の1.7倍の水揚げでした。ムシガレイはここ数年、資源的に減少傾向に転じていましたが今漁期は小型魚が多く漁獲されました。平成13年以来の卓越年級群の出現が期待されますが、大型クラゲの影響により、他の漁場での操業が困難であったことから、例年よりもムシガレイに対する漁獲圧は強いと考えられます。今後の資源動向に注意が必要です。

近年減少が続いていたソウハチですが、今漁期は冷水の張り出しが例年よりも強く、冷水を好む本種も比較的獲れています。１統当たり漁獲量は10.6トンで、前漁期の約４倍の漁獲がありました。また、ヤナギムシガレイの１統当たり漁獲量は14.8トンで、前漁期の1.5倍、平年の1.4倍の漁獲がありました。カレイ類は概ね好調で、大型クラゲの大量来遊による漁獲量の落ち込みを下支えしました。

イカ類低調

ケンサキイカの１統当たり漁獲量は12.2トンで、前漁期、平年の約５割の漁獲に留まりました。一方、ヤリイカの１統当たり漁獲量は1.5トンで、平年の約３割（25%）と依然低い水準にあります。

アンコウ好調！

近年増加傾向にあるアンコウの１統当たり漁獲量は24.5トンで、好調だった前漁期をやや上回り、昭和56年以降最高記録を更新しました。一方で、アナゴの１統当たり漁獲量は16.3トンで、前漁期、平年の約８割の漁獲に留まりました。キダイの１統当たり漁獲量は9.3トンで、好調だった前漁期の約４割（36%）の漁獲に留まりました。また、アカムツの１統当たり漁獲量は2.2トンで、前年の約２割、平年の３割と不振でした。一方、ニギスの１統当たり漁獲量は25トンで、前漁期の2.5倍、平年の２倍の漁獲がありました。

◆県東部

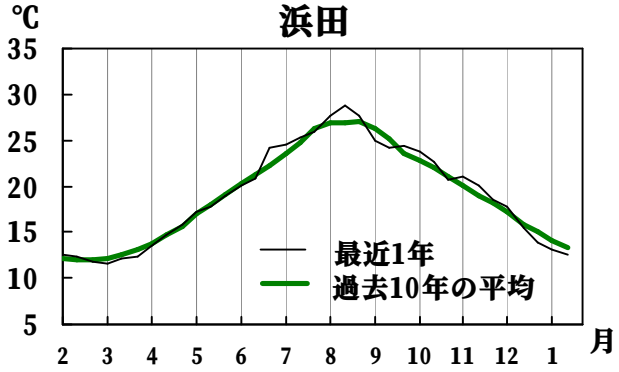
恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業（２ヶ統）の平成17年漁期前半の総漁獲量は前年に比べ約１割減少しました。主に漁獲された魚種はムシガレイ、ヤナギムシガレイ、アンコウでした（漁獲量全体の約６割）。

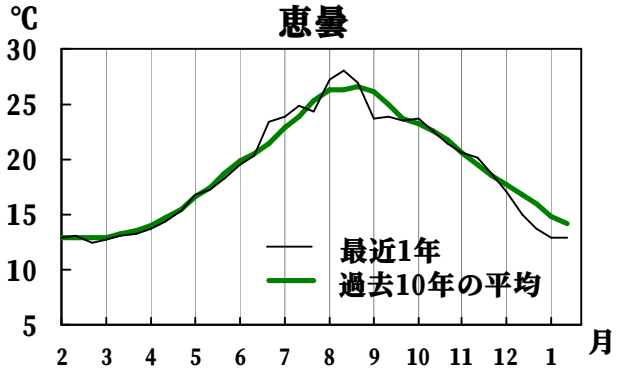
カレイ類はムシガレイ主体の漁獲でしたが、ヤナギムシガレイ、ソウハチなど主要な魚種はいずれも前年を上回りました。一方、前年好調だったキダイですが、前年の約１割に、アナゴ類も約５割に留まりました。

《 12～1月の海況 》

12月	月平均	平年差	評　価
浜田	15.7℃	-0.3℃	平年並み
恵曇	15.3℃	-1.6℃	かなり低め

12月の平均水温は浜田では「平年並」でしたが、恵曇では「かなり低め」でした。浜田・恵曇共に12月中下旬に水温が大きく低下し、それ以降1月下旬現在まで水温は12～13℃（平年より1～2℃低め）で推移しています。





＜大型クラゲ情報＞

◎ 速報

1月中旬 沖底（浜田） 入網はかなり減った。死んだ個体ばかり。
1月中旬 石見部の小底,死んだ個体が多少入網
1月中旬 出雲部の定置で相変わらず大量入網。死んだ個体も多い。

◎ 1月の概況

・クラゲの数はかなり減ってきた模様で、死んだ個体が多いようです。ただし、出雲部の定置では大量入網の報告があります。また、山口県日本海側でも大量入網の報告があるため要注意です。

※ インターネットでクラゲ情報の提供を随時行っています。携帯・パソコンで下記をご覧下さい。
http://www2.pref.shimane.jp/suisi/ik/

《 12月の漁況 》

【中型まき網漁業】

12月は記録的な時化続きのため各地とも漁模様は低調に推移しました。浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ、マサバ主体に78トン、総水揚金額は1,163万円でした。1統当りの漁獲量は26トン（平年(過去5ヵ年平均)の9%、前年の9%）、同水揚金額は388万円（平年の15%、前年の21%）となり、操業日数が平年の3割未満（各船3日出漁）と大幅に減少したため12月としては過去最低の値となりました。西郷では、ブリ、マアジ、マサバ主体に総漁獲量2,310トン、総水揚金額は1億9,429万円でした。1統当りの漁獲量は385トン（平年の83%、前年の65%）、同水揚金額は3,238万円（平年の72%、前年の62%）でした。浦郷ではマサバ、マアジ主体に総漁獲量1,115トン、総水揚金額は7,168万円でした。1統当りの漁獲量は279トン（平年の87%、前年の49%）、同水揚金額は1,792万円（平年の91%、前年の68%）でした。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船（5トン以上）の漁獲量は、ケンサキイカを中心に1.6トンで、平年の7%、前年の5%、同水揚金額は354万円で、平年の39%、前年の23%と低調に推移しました。西郷のイカ釣船（5トン以上）の漁獲量はスルメイカ主体に6.5トンで、平年の13%、前年の16%、同水揚金額は601万円で、平年の23%、前年の29%と浜田港と同様に低調に推移しました。この原因としては、まき網と同様に時化のため操業日数が確保できなかったことや主力となるスルメイカの漁獲が不調であったことによります。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではムシガレイ、アンコウが漁獲の中心でした。１統当り漁獲量では前年を２割、平年を１割下回りましたが，水揚金額は前年並みで，平年に対しては約３割（26%）上回りました。カレイ類ではムシガレイが前年の 1.1 倍、ソウハチは約２倍の漁獲がありました。一方、前年好調だったケンサキイカ、キダイについてはそれぞれ前年の２割及び４割程度の漁獲に留まりました。

恵曇港ではムシガレイ、アンコウ、ヤナギムシガレイが漁獲の中心でした。

【小型底びき網漁業】

大田市・和江漁協ともに、天候不良により出漁日数が前年の３割程度に落ち込みました。これに加えて、大型クラゲによる影響もあり、漁獲量・金額ともに前年の３割（漁獲量 33～28%、金額 34～27%）まで落ち込みました。

大田市漁協の主な漁獲物はソウハチ、ニギス、キダイ、ムシガレイでしたが、いずれの魚種も漁獲量・金額とも前年の２割から４割程度でした。和江漁協ではイボダイ、アンコウ、キダイ、ムシガレイが主に漁獲されましたが、大田市漁協と同じく、漁獲量・金額とも前年の２割から３割でした。

【定置網漁業】

定置網も天候不良のため出漁日数が平年の５割程度となり、各地区とも低調な漁況でした。県東部では漁獲量は前年の３割、平年の４割で、漁獲金額は前年の６割、平年の５割でした。県西部では漁獲量は前年の８割で平年並み，漁獲金額は前年の６割増で、平年の３割減、隠岐では漁獲量は前年の５割、平年の４割増、漁獲金額は前年並みで、平年の７割増となりました。漁獲物は県東部ではカワハギ類、ケンサキイカ、スズキ、県西部ではマアジ、ブリ、カワハギ類、隠岐ではマアジ、サバ類などが主体となっています。

【釣・縄】

釣・縄も天候不良のため出漁日数が平年の２割程度で、水揚げも非常に少なくなっています。県東部では漁獲量は前年の２割、平年の１割、漁獲金額も前年、平年の２割でした。県西部では漁獲量は前年の２割、平年の１割、漁獲金額は前年の３割、平年の２割でした。隠岐では漁獲量は前年、平年の２割、漁獲金額は前年の３割、平年の４割といずれも非常に低調でした。主な漁獲物は県東部ではブリ、ケンサキイカ、県西部ではサワラ、ブリ、隠岐ではケンサキイカ、メダイ、ヨコワ等となっています。

漁獲統計　　**平成 17 年 12 月 1 日 ～ 31 日**

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	9	マアジ・マサバ	9 トン	78 トン
	西郷	58	ブリ・マアジ・マサバ	40 トン	2,310 トン
	浦郷	30	サバ・マアジ	37 トン	1,115 トン
イカ釣り	浜田	43	スルメイカ	37kg	1.5 トン
(5 トン以上)	西郷	14	スルメイカ	461kg	6.5 トン
沖合底びき網	浜田	31	キダイ、アンコウ、ムシガレイ	10.9 トン	341 トン
	恵曇	19	ムシガレイ、アンコウ、ﾔﾅｷﾞﾑｼｶﾞﾚｲ	Xトン	Xトン
小型底びき網	大田市	107	ソウハチ、ニギス、キダイ	491kg	53 トン
	和江	136	イボダイ、アンコウ、キダイ	560kg	76 トン
定置網	浜田	42	ブリ、マアジ、カワハギ類	131kg	5.5 トン
	美保関	105	マアジ、スズキ、カワハギ類	256kg	26.9 トン
	浦郷	81	マアジ、ブリ、ソウダガツオ	77kg	6.2 トン
釣･縄	浜田	227	ブリ、サワラ類、メダイ	31kg	7.0 トン
	五十猛	96	ブリ、サワラ類	24kg	2.3 トン

※　：１隻（統）１航海当漁獲量は総漁獲量÷延隻数・統数で算出しており、四捨五入した値です。